

令和5年度 第2回 紀南高等学校運営協議会 議事概要

日 時	令和5年7月13日(木) 19:00~21:00
場 所	紀南高等学校会議室
出席者 (敬称略)	西、岩本、山本、長阪、廣畑、田尾、産屋敷、二村、立嶋、中嶋、湊 (県教育委員会) 大屋、津村、加藤 (紀南高校) 辻、込谷、湊、松本
欠席者 (敬称略)	辻本、舛屋
議 事  主な意見	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 「第1回紀南高等学校学校運営協議会」議事概要について</p> <p>(2) 第3・4回紀南地域新高等学校ワーキング会議について</p> <p>(3) 異動通知書について ⇒<u>高校教育課にて名称を変更する方向で検討している。</u></p> <p>(4) 教職員と語る会について ⇒<u>新高等学校のワーキング会議を通じて教職員の意見を伝えていく。</u></p> <p>(5) 生徒の状況等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の作成について、文意が通じないところがあるため、言葉を丁寧に扱ってほしい。</li> <li>・特別支援員など専門職の配置についてはどうなっているのか。 ⇒<u>県から派遣される発達障がい支援員は月2回程度の来校、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して、特別支援教育推進委員会で生徒情報を共有しながら組織的に対応している。また、通級指導も考えている。</u></li> </ul> <p>(6) 紀南高等学校生徒会役員へのアンケート結果から</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 令和5年度学校運営費支出計画(一部)について ⇒ 承認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業廃棄物処理など決定済みの予算については、意見を言っても変更できない議事なので、検討する意味がない。</li> </ul> <p>(2) 紀南地域新高等学校について ⇒ <u>報告にある生徒会役員へのアンケートを踏まえて、紀南高校の良さ、新高等学校に残したいものへの意見を求めたい。中学校を回って聞いた紀南高校への期待は、特別支援の生徒を受け入れることや一人ひとりを丁寧に教育することだと感じた。今の特色ある授業をグレードアップして紀南校舎をより活かしたい。</u></p>

- ・紀南高校の魅力を出すと、紀北地域からも希望者が来るため、地元の生徒が入学できないことが考えられる。
- ・令和7年度以降の生徒数の推移をみると、紀南地域は増加する。本当に1クラス40人で対応していけるのか。
- ・木本高校の普通科が定員割れをしないように頑張ってもらいたい。
- ・校長の判断でくくり募集ができるのか。  
⇒教員配置をした上で学校が運営できるのかを考えて、校長が最終判断をする。
- ・進路指導部はそれぞれに置くのか。  
⇒それぞれの校舎に進路指導部を置く予定。
- ・近年の会議では、活性化に重点が置かれて、本来のコミュニティ・スクールの運営に関する議論が出来ていない。「地域に開かれた学校」を目指してやってきたことについて、何が出来て、何が出来なかったのかを検証する必要がある。
- ・紀南高祭では、同窓会も出店して生徒の様子を見ることが出来た。今年度は平日開催で公開しないと聞いているので、非常に残念だ。
- ・新しい学校の姿はいつになったら示せるのか。今後のスケジュールも含めてなるべく早くビジョンを示して欲しい。直前になってからでは不安がある。  
⇒県教委と相談して、9月には具体的に示していきたい。  
⇒(県教委)7月21日開催の協議会を踏まえて、パブリックコメントを集める。早く学校像が伝わるようにしたい。
- ・矢淵中学校の学校運営協議会では、今年中には決定してほしいという声があった。新高等学校への要望を出せるのは、1回しかないのか。  
⇒パブリックコメントは7月下旬から約1ヶ月募集するので、その時に意見をいただきたい。今後決まったことはその都度お伝えしていく。
- ・入試の方法はどうなるのか。第1希望、第2希望などと中学生が書けるのか。  
⇒中学校からの要望も多数聞いているので、その声を踏まえて、入試方法は県教委と今後相談しながら決定する。
- ・1クラスでどんな特徴を出すのは難しい。具体的に示して、安心できる方向で進めてほしい。
- ・生徒会のアンケートを読み解くと、教員への依存心が強く感じる。生徒が自立するビジョンを考えてほしい。

- ・生徒会のアンケートでは、家から近いという理由で紀南高校を選んだ生徒はいないので、学校の良さで選んだといえる。生徒の状況をみると退学者も一定数いることがわかるが、生徒が減ったからといってクラスをなくす方向で考えることはやめてほしい。
- ・県の教育長に紀南高校の保護者としての思いを伝えたら、地域の思いはわかったと回答を得た。希望生徒を増やす手立てを考えないといけないので、県教委の知恵を貸してほしい。  
⇒紀南高校にいる80人の受け皿を絶対に作らないといけない。木本高校と話をしながら、少しずつでも動かしていきたい。

### 3 連絡事項

- (1) 今後の予定では、11月30日(木)第3回学校運営協議会、令和6年3月7日(木)第4回学校運営協議会と提案したが、ワーキング会議も進むことから、  
◆パブリックコメントの集約後、9月に第3回学校運営協議会を開催したい。
- (2) 配付資料(令和5年度学校要覧・スクールガイド2024・きなん小中学生俳句コンクールチラシ・新聞記事)